

令和3年度 山口県立農業大学校評価シート

[教育目標]

- ① 効率的かつ安定的な農業経営に必要な生産技術能力、経営管理能力の育成
- ② 先端技術や高度化に対応できる応用力、実践力の育成
- ③ 社会環境の変化に対応できる幅広い視野と先見性、創造的に解決する力の育成
- ④ 地域農業の発展や振興に主体的かつ協同的に取り組む態度の育成
- ⑤ 社会人として必要な規範意識や倫理観及びコミュニケーション能力の育成

[重点目標]

- ①入学生の確保(学生)
- ②農業法人への就業促進(学生)
- ③新規就農・就業者の確保と育成(社会人)
- ④園芸経営の安定(野菜・花き・果樹の各種技術実証の学修)
- ⑤JGAP手法による安心・安全な農産物の生産体制強化
- ⑥畜産経営の安定(酪農・肉用牛の低コスト生産技術の学修)
- ⑦効率的な業務運営体制の構築
- ⑧危機管理の徹底

[達成度]の基準

- A 目標を上回っている
- B 目標通り進捗している
- C 目標を下回っている

重点目標、現状、課題	達成目標・評価指標及び具体的方策	経過・達成実績(自己評価)	外部評価・意見	評価
<p>①入学生の確保(学生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去5年の定員充足率80% ・R3年度入学生34名 <p>②農業法人への就業促進(学生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就農・就業者割合 過去5年:67%、R3:69% <p>③新規就農・就業者の確保と育成(社会人)</p>	<p>(達成目標・評価指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入学生の定員充足率 100% ○就農・就業者割合 70% <p>(具体的方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農業関係高校との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス、ガイダンスの充実 ・高等学校農業教育研究会との連携強化 ○魅力あるカリキュラムの編成 <ul style="list-style-type: none"> ・魅力あるカリキュラムの検討と実施 ・就農・法人就業に向けた実践的な学修の強化 農業経営、GAP、スマート農業、6次産業化、林業概論 ○情報発信の強化・充実 <ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスでの情報発信 ・HPの充実と周知 ・パブリシティの活用 ○就農・就業への指導の強化・充実 <ul style="list-style-type: none"> ・面談、ガイダンス、短期・長期研修の充実 ・就農・技術支援室、農林水産事務所と連携した法人就業に向けた調整 ・校内進路調整会議で研修先、受験先を検討 <p>(達成目標・評価指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新規就農者の確保に向けた研修(短期入門研修、作物基礎研修)の定員確保 ○研修生の100%進路確保(現地研修への移行含む) 			

<p>④園芸経営の安定 (野菜・花き・果樹の各種技術 実証の学修)</p>	<p>(具体的方策) ○新規就農者の確保に向けた研修(短期入門研修、作物基礎研修)の定員確保について ・農林振興公社や市町等と連携した県内外からの就農候補者の確保(ゆめツアー・ガイダンス等の活用) ・新規就農サポーターズ等との連携した取組の実施、県内法人等への周知強化 ・新たな退職予定者等へのインターンシップの実施等、確保に向けた新たな取組の実施(自衛隊、レノファ山口、競輪選手など) ○担い手養成研修生の確実な育成及び進路確保 ・研修実施による実践技術の習得 ・農林水産事務所又は農林事務所、関係機関・団体等と連携した情報共有とマッチング強化</p> <p>(達成目標・評価指標) ○実証技術 9 件(生産安定:1、省エネ:1、低コスト:4、高付加価値:3) ○農薬残留分析(1検体/年:ミニトマト) ○食品安全事故ゼロ</p> <p>(具体的方策) ○就農及び就業に対応できる適切な農場管理方法の習得と経営複合化に対応できる技術の実証 ・省エネ・低コスト生産技術、付加価値の高い品目の導入による学生及び就農支援塾生のスキルアップ (野菜) ○いちご・トマト:環境モニタリング装置を活用した炭酸ガス積極施用の実証【生産安定】 ○果菜類、葉菜類:多層被覆資材(布団資材)による省エネ技術と周年活用【省エネ・低コスト】 ○機械化一貫体系による土地利用型野菜(じゃがいも、たまねぎ、ニンジン)の栽培実証【低コスト】 (花き) ○県オリジナル品目(リンドウ他):高品質栽培実証【高付加価値】 ○無加温・露地栽培等による低コスト生産品目の導入検証【低コスト】 (果樹)</p>			
---	--	--	--	--

<p>⑤JGAP手法による安心安全な農産物の生産体制強化</p>	<p>○温州みかん、せとみ：高糖度化に向けたスマートマルドリ技術の導入【高付加価値】 ○ぶどう：長期貯蔵出荷技術の導入【高付加価値】 ○なし：溶液受粉技術の導入【低コスト】</p> <p>(達成目標・評価指標)</p> <p>○JGAP手法による点検・改善体制づくり ・専攻毎の的確なチェック、生産工程の安全性を確認</p> <p>(具体的方策)</p> <p>○JGAP手法による講義及び各専攻毎の点検・改善活動 ○農薬残留分析の実施(ミニトマト) ○第三者による農大運営方法の点検によるチェック(JGAP維持審査)</p>		
<p>⑥畜産経営の安定 (酪農・肉用牛経営の安定化を図る技術実証の学修)</p>	<p>(達成目標・評価指標)</p> <p>○2年生人工授精の実施：2回/人以上(2年生10名) ○イネWCSの生産：2ト/10a ○IoT技術機器を活用したスマート畜産の実践による個体管理：空胎日数目標 酪農100日、肉用牛80日 (IoT技術機器：Farmnote Color(株式会社ファームノート))</p> <p>(具体的方策)</p> <p>○家畜人工授精技術の実践と習熟(2年生) ○自給飼料(イネWCS含)生産と給与等の実践 ○IoT技術機器を活用した個体管理の実践 ○農場HACCPの認証を想定した取組の実</p>		
<p>⑦効率的な業務運営体制の構築</p>	<p>(達成目標・評価指標)</p> <p>○一人当たり115時間/年以内 ○一人当たり13日/年</p> <p>(具体的方策)</p> <p>○業務の工夫改善を進める</p>		
<p>⑧危機管理の徹底</p>	<p>(達成目標・評価指標)</p> <p>○所属職員の心身等健康管理 ○コロナウイルス感染症対策の徹底</p> <p>(具体的方策)</p> <p>○中堅・若手教員との意見交換等によるコミュニケーションづくり ○学生等での発生を見越した校内体制の整備</p>		

